

山口国体を振り返って

競技力向上委員会委員長 森 義昭

第66回国民体育大会柔道競技会は、10月2日～4日迄の日程で、山口県萩市萩市民体育館で開催されました。

東京都は成年女子を除く3部門での出場となりましたが、年少少女が5位ベスト8、少年男子、成年男子がそれぞれ2位準優勝という成績を残し、総合優勝という成績を収めることができました。山本浩史・高橋和彦・鈴木桂治というトップアスリートの参加を実現できた反面、成年女子の強化、年少少女の育成等の課題も明確となりました。委員会では今年・来年そして再来年の東京国体までの3年をホップ、ステップ、ジャンプの年と考え計画的に諸事業を進めてまいります。

福田会長・関根専務理事を中心に委員会一丸となって取り組めますので皆様方の今後益々のご協力をお願いいたします。

山口国体を終えて

少年男子 コーチ 大森 淳司

第68回 国民体育大会 おいでませ！山口国体を第2位という結果で終えることができましたことをご報告申し上げます。今年の選手は先鋒 藤澤 征憲（足立学園）次鋒 星光（日本学園）中堅 長倉 友樹（修徳高校）副将 五味 江貴（修徳高校）大将 遠藤翼（国士舘高校）という布陣で臨みました。数多く合同練習や合宿を行い例年以上にチームワーク抜群でした。監督をはじめスタッフ一同3年ぶりの優勝を目指し山口県萩市に乗り込みました。初戦は開催地山口県チームでした。地元の大声援を受けた山口県の選手達に東京チームは普段より固くなりましたが、結果4-1の勝利を収め1日目を終えました。2日目の3回戦では和歌山県を5-0、準決勝福島県には3-0の勝利、決勝で宿敵神奈川県との対戦となりました。先鋒は神奈川県高藤選手の巧みな動きに翻弄され一本を奪われてしまい、次鋒星選手は組んで攻めようと前に出ますが一瞬の隙をつかれ有効を奪われて敗れました。絶体絶命のピンチでしたが中堅長倉選手が指導2で勝利。後ろの選手に望みを託しました。副将、大将ともによく攻めましたが引き分け、1-2で神奈川県に3連覇を許してしまいました。一進一退の勝負でしたが選手達は自分の力を出し切ってくれたと思います。今後の競技人生に生かしてほしいです。風光明美な山口県萩市歴史の香りを選手達も感じ大会を終えました。

応援していただいた東京都の関係者、また大会を運営された山口県柔道連盟の皆様には厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

第 66 回国民体育大会 柔道競技会 少年女子報告書

☆チーム編成

先鋒：中村くるみ（帝京高校） 中堅：矢澤紗瑛（都立駒場高校） 大将：谷村美咲（帝京高校）

☆大会成績 第 5 位

第 66 回国民体育大会「おいでませ！山口国体」柔道競技会が山口県萩市の萩市民体育館で 10 月 2 日から開催され、少年女子の部は初日の 10 月 2 日に行われた。本年度のチーム編成は、先鋒が 1 年生、中堅及び大将が 3 年生のチームである。今年の東京都の目標は昨年逃した総合優勝であり、その為には初戦敗退だけは避けねばならない。そのような状況の中、2 回戦より大阪府と対戦した。

	〔2 回戦〕	1 - 0	大阪府	〔3 回戦〕	0 - 2	愛媛
県						
	中村	×	中原	中村	×	鶴
岡						
	矢澤	×	名村	矢澤	▲ 指導 2	鈴
木						
	谷村	有効 3 ▲	木山	谷村	▲ 有効	月
波						

初戦の大阪府は選手 3 名が同じ所属のため結束力のある強豪チームである。

先鋒戦は中村が開始から先に攻め、袖釣り込み腰で相手を数回持ち上げるが、腹ばいで落ちるなどコントロールが定まらない。お互い組み手争いが厳しく、お互いがしっかりと組めないままの攻防が続く。終盤、中村がフェイントを入れての小内刈りを掛けると、相手はたまたら倒れるがポイントにはならずそのまま寝技に移行、中村が絞め技を狙いに行くが時間となり引き分けとなる。続く中堅戦は東京矢澤が身長、体格でやや有利。ケンカ四つの組手だが、矢澤はやや硬さが残る柔道でいま一つ自分のリズムが掴めないまま、得意の大外刈りを幾度か繰り出すが決定力不足。危ない場面こそ無かったもののそのまま引き分けに終わる。両チーム五分の戦いで迎えた大将戦。東京の谷村は左組みで大阪の木山は右組みのケンカ四つ。谷村は終始釣手を持ち勝つことを意識し、足技から体落とし、相手が潰れたらすぐさま寝技で攻める繰り返しで、相手に指導が与えられる。その後も谷村は慌てることなく相手にうまく合わせた払い巻き込みで有効を奪う。その後も谷村ペースの展開で終了 30 秒前に相手に再び指導。有効 2 でリードするが、更に終了間際お互いが纏

れるように倒れる際、相手を上手くコントロールした谷村に有効が与えられ、そのまま有効3で勝利し、初戦1-0で東京都が3回戦に駒を進めた。

3回戦は鹿児島県が勝ち上がってくるだろうという予想を覆して進出してきた愛媛県。確実に先鋒戦からポイントを稼ぐ作戦を選手に伝え臨む。先鋒戦では2回戦同様中村が袖釣り込み腰で先に攻める展開で、相手は何も出来ないまま開始29秒で指導が与えられた。その後相手も幾度となく座り込んでの担ぎ技を繰り返すが決めはなく、中村もリズムが掴めず攻めきれないまま時間が過ぎ、その後の指導も奪えないまま引き分けに終わった。次の中堅矢澤と愛媛県の鈴木は合四つ。開始1分位までは両者互角の展開であったが、徐々に矢澤のスタミナ切れが見られ、相手は内股、体落とし、大外・小内と連続で技を仕掛けてくる事が多くなり、その後矢澤が指導を受ける。矢澤も大外で反撃するが攻めが弱く中盤以降は相手のペースで試合が進み、終了10秒前に再び矢澤に指導が与えられ、そのまま試合終了。指導2を奪われ、有効で敗れた。追う展開となった大将戦は、先の高校総体で対戦している二人で、その試合は谷村が抑え込んで1本勝ちで勝利しているため、逆転が期待出来る試合となる。前半はお互いが組んだら攻める繰り返しであったが、中盤相手が前に出てくるのに合わせて谷村が下がる展開で、谷村に指導が与えられた。お互いの攻防が続き、3分過ぎ相手が潰れた際に谷村が相手の肩越しから上半身を返しに行き、崩れ横四方固で抑えたかに見えたが、相手の下半身が返っておらず数少ないチャンスを逃す。残り時間が少ないので、前に出て奥襟を取り攻撃させるが、相手の受けも強く、大外刈りを強引にかけに行ったら返されて有効を奪われた。そのまま時間となり、愛媛県に2-0の対戦結果で敗退した。

終わってみて考えると、このチームの勝ちパターンは先鋒戦でしっかりポイントを取ることが重要で、それが出来ず後ろの選手に頼ってしまったのが敗因のように感じる。3名の選手がそれぞれ自分の得意とする技・パターン・リズムといった要素を十分に発揮して、試合展開できることが望ましいが、ここぞという時に失点を出さないチームワークも重要な課題である。また国体において勝利するには、それぞれの選手が所属する学校での、日頃からの強化策が重要な意味合いを持つことを忘れずに、今後も精進し、課題として取り組んでいきたい。(東京都少年女子監督：木曾 博)

(成年男子チーム)

■柔道競技会東京都代表選手団

成年男子

監督 道場 良久 (警視庁)

コーチ 田中 力 (国士舘大学)

先鋒 山本 浩史 (日本体育大学)
次鋒 金岡 慎司 (警視庁)
中堅 西山 将士 (新日本製鉄株式会社)
副将 高橋 和彦 (新日本製鉄株式会社)
大将 鈴木 桂治 (国士舘大学)

■試合結果

○1回戦

東京都 4 - 0 岡山県

○2回戦

東京都 1 - 0 京都府

○3回戦

東京都 4 - 0 佐賀県

○準決勝戦

東京都 1 - 0 宮崎県

○決勝戦

東京都 1 - 2 千葉県

先鋒 山本 引分 石川
次鋒 金岡 引分 西岡
中堅 西山 - ○ 花本
副将 高橋 ○ - 森本
大将 鈴木 - ○ 須藤 (優勢)

決勝戦では昨年と同じ顔合わせの千葉県、昨年の雪辱を果たすべく優勝奪還へ挑む東京都。先鋒戦山本選手対石川選手互いに攻め合いしかし試合時間の4分が過ぎ「引き分け。」次鋒戦金岡選手対西岡選手互いに攻めあうが試合運びがうまくいかず「引き分け。」中堅戦西山選手対花本選手、互いの組手はケンカ四つ西山選手は場外際で大内刈りを掛ける、投げたと思われたが西山選手がバランスを崩し返され技ありを奪われる。その後、懸命に西山選手は攻め立てるが払い腰に入った瞬間引き手を引かれ体勢を崩し技ありを奪われ「一本負け。」副将戦高橋選手対森本選手、東京都としてはここで確実に一本を欲しいところである。森本選手は初戦で昨年の世界選手権の覇者である上川選手(山口県代表)を破る快挙を成し遂げている。試合が開始され組手はケンカ四つである。今回高橋は一回戦より苦戦していた試合の期間が開き過ぎていたのか、本来の攻めが不十分であった。しかし徐々に感覚を取り戻してきたのか、特に決勝戦では相手を寄せ付けない攻撃力がみられた、豪快な払い腰で「一本勝ち。」ここまでのポイントは1対1の同点である。

大将戦鈴木選手対須藤選手、国士舘大学出身の同門対決。組手はケンカ四つである。試

合開始、互いに組手争いの中での攻防が展開される、ここでの鈴木選手は引き分けては、代表戦。代表戦に持ち込む前に勝利したいのが東京都成年男子主将として心情である。常に前に出て展開を作ろうとしていた。須藤選手は前に出てきた鈴木選手の釣り手を低い姿勢での袖釣込腰にタイミングよく入り技ありを奪った。その後鈴木選手は須藤選手を攻め立てるが、試合時間4分が過ぎ「優勢負け。」結果決勝戦は昨年と同位の準優勝に終わった。













